

## 「立憲民主党と対話する市民・東京」の発足にあたって

私たちは、2018年1月28日開催の「市民と立憲民主党との大対話集会」の成功を受け、これからの活動に向けて持続的な組織をつくることをめざし、「大対話集会」のよびかけ人・賛同人による会議を重ねてきました。

そして、「立憲民主党と対話する市民・東京」（略称「対話市民」）を発足させることを確認しました。

「大対話集会」は、以下のような趣旨（よびかけ文抜粋）で企画されました。

「暴走する安倍政権によって、政治と主権者である市民との溝は深まっています。市民の手に政治を取り戻すにはどうすればよいのか、今、強く問われています。

『立憲民主党をつくったのは枝野幸男ではない。あなたです。あなたが作った政党が立憲民主党です』とボトムアップの政治を一緒につくろうとする枝野代表の一連の発言は、市民にしっかりと届きました。総選挙においても、市民との関係をフラットにした選挙がめざされ、市民との距離間は確実に狭まり始めました。その結果、今の政治、今の社会で、閉塞感に包まれていた有権者が、結党からわずか1か月の立憲民主党への1000万を超える期待の票を投じたのです。

立憲民主党の誕生そのものが、『市民の手に政治をとりもどそう』という、市民への政党からの呼びかけだったと思います。これからが、市民の政治を実現するための本当の勝負ではないでしょうか。私たち市民も、おまかせ民主主義、観客民主主義から脱皮していくことを本気になって考えなくてはなりません。市民と政党の間でいかなる連携ができるのか、市民と政党がフラットな場で対話を積み重ねることが求められています。チャンスは今です。』

「大対話集会」には、枝野代表をはじめ16名の立憲民主党の国会議員と500人を超える市民が参加、熱い対話を行いました。この成功は、ボトムアップの政治、政党への期待と、市民がおまかせ民主主義から脱却し、主体的に政治・政党に関与し、対話し、提案していくことの重要性を示すものでした。

総選挙から6か月、「大対話集会」から3か月、政治状況はさらに深刻になっています。安倍政権によって権力は私物化され官僚機構は腐敗し、嘘と捏造の横行によって民主主義が壊されようとしています。戦後政治史上最悪の政権です。

一刻も早くまっとうな政治を実現させるために、広く市民の共感を得てスタートした立憲民主党が、その中心的役割を果たしていけるのかは、市民の政治の実現のためにも重要なテーマです。

私たちは、「大対話集会」成功を踏まえ、立憲民主党と引き続き対話を続け、さまざまなステージでコラボレーションを展開し、回路を広げていく活動を行います。

2018年5月10日

### 「立憲民主党と対話する市民・東京」世話人

- 共同代表 上原公子（元国立市長、脱原発をめざす首長会議事務局長）  
白石孝（市民の政治トークの会共同呼びかけ人）
- 池尻成二（練馬区議）、大西宏（立憲民主党を支持する町田市民の会世話人）、可児裕二（ひまわり行動市民の会）、漢人明子（元小金井市議）、陣内直行（映像プロデューサー）、中村まさ子（江東区議）、野口修（つくばみらい市議）、橋本久雄（小平市議）、松尾勉（江東区民）、宮部彰（調布市民）、村田文雄（市民の声・江東）、森友義（八千代市民）（50音順）

<賛同金> 一口1,000円（年）

<郵便振替口座> 記号番号：00120-3-363623 名称：立憲民主党と対話する市民・東京

<連絡先> 03-5933-0108 池尻事務所 03-3636-1031 中村事務所 042-348-1127 橋本事務所